

富山高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	環日本海諸国語 I (ロシア語)
科目基礎情報					
科目番号	0105		科目区分	一般 / 選択	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	学修単位: 1	
開設学科	電子情報工学科		対象学年	4	
開設期	前期		週時間数	1	
教科書/教材	授業にて指示する				
担当教員	山本 有希				
到達目標					
1)学習したロシア語表現を用いて、自分のことを説明できるようになる 2)ロシア語の文章を音読、暗唱できるようになる 3)学習したロシア語表現を用いた質問に対して、ロシア語で答えることができるようになる 4)ロシア語の授業を通じてロシアの文化や社会に親しむことができるようになる					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安(優)		標準的な到達レベルの目安(良)		未到達レベルの目安(不可)
評価項目1	主として名詞の性別、動詞現在人称変化について、8割以上正しく答えられる。		主として名詞の性別、動詞現在人称変化について、6割以上正しく答えられる。		主として名詞の性別、動詞現在人称変化について、正答率が6割に達しない。
評価項目2	上記文法事項を活用した口頭表現及発表がスムーズにできる。		上記文法事項を活用した口頭表現及びその発表ができる。		上記文法事項を活用した口頭表現及びその発表が満足にできない。
評価項目3	ペアワークやグループワークにおいて、積極的に表現を考え、発表することが良くできる。		ペアワークやグループワークで協力して表現を考え、発表することができる。		ペアワークやグループワークで協力して表現を考え、発表することができない。
学科の到達目標項目との関係					
ディプロマポリシー 3					
教育方法等					
概要	【学習目標】 ロシア語初級文法・会話の学習を通じて、ロシアという国の社会や文化に親しむ。				
授業の進め方・方法	教員単独による講義および演習 事前に行う準備学習：講義の復習および予習を行ってから授業に臨むこと。				
注意点	(授業改善策) 学生の理解度を確認しながら授業を進めるよう努める。 評価が60点に満たない者は、願い出により追認試験を受験することができる。追認試験の結果、単位の修得が認められた者については、その評価を60点とする。 (備考) 1)遅刻3回で欠課1時間とする 2)授業計画、評価方法及び評価項目は変更することがある 3)定期試験 (中間試験及び期末試験)を80点、その他(発表、課題、小テストなど)を20点として評価する 4)家庭における自主学習用の課題を課す 5)授業外学習・事前：授業内容を予習する。 授業外学習・事後：授業内容を復習し、与えられた課題を解く。				
授業の属性・履修上の区分					
<input checked="" type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input checked="" type="checkbox"/> ICT 利用		<input checked="" type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	1)オリエンテーション 2)ロシア文字の名称と発音①	ロシア文字の名称と発音、およびアクセントの落とし方を理解する。	
		2週	ロシア文字の名称と発音②	ロシア文字の母音の弱化を理解し、発音できるようになる。	
		3週	ロシア文字の名称と発音③ 第4課「これは誰の写真ですか？」	1)子音の同化とその発音を学習する。 2)名詞の複数形と、所有代名詞を学習する。 3)名詞の性別について理解し、性別を区別することができる。	
		4週	ロシア文字の名称と発音④ 第4課「これは誰の写真ですか？」	所有代名詞と名詞の結合を理解し、適切に組み合わせて使うことができる。	
		5週	ロシア文字の名称と発音⑤	既習事項を使用して、自己紹介や家族紹介ができる。	
		6週	第1課「これは何ですか？」 「これは誰ですか？」	人物や物の名称を尋ねたり、答えたりできる。	
		7週	第2課 「あなたは学生ですか？」	人物の立場について尋ねたり、答えたりできる。	
		8週	既習事項の復習と確認	口頭で挨拶表現や自己紹介と家族紹介をすることができる。	
	2ndQ	9週	中間試験	既習事項の確認をする	
		10週	試験返却及び解説 第3課「郵便局はどこですか？」	1)試験を返却し、解説する。 2)場所を尋ねる表現を学習する。	
		11週	第3課「郵便局はどこですか？」	第1変化動詞の人称変化を理解し、活用することができる。	
		12週	第5課「どこにお勤めですか？」	名詞の格変化の概念を理解することができる。	
		13週	第5課「どこにお勤めですか？」	動詞を用いて、「誰がどこで何をしているのか」を表現できる。	
		14週	既習事項の復習と確認	口頭で「誰がどこで何をしている」のか、伝えることができる。	

		15週	期末試験	既習事項の確認を行う
		16週	成績確認	1)成績評価・確認を行う 2)夏休みの課題の確認

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
----	----	------	-----------	-------	-----

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	80	0	0	0	0	20	100
基礎的能力	80	0	0	0	0	20	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0